

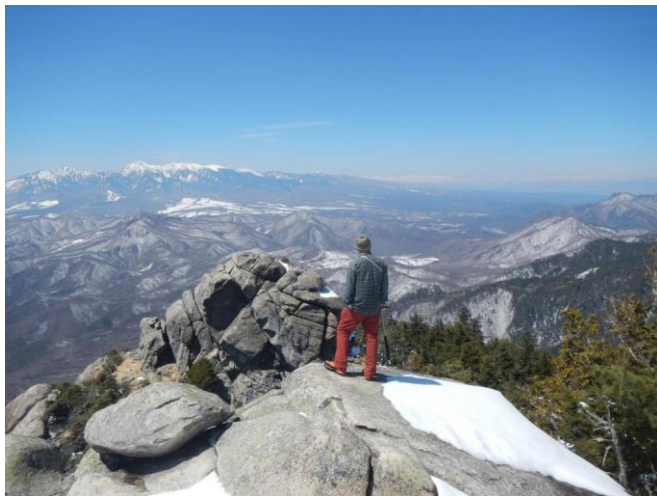
奥秩父：瑞牆山，金峰山

- ◆日程 2019年4月13日(土)～14日(日)
 ◆メンバー L：岡村、前田、大塚

4月13日(土) 天候：晴

5時に岡村さんに車でピックアップして頂き、出発。早朝のため、流れが良く3時間弱で登山口の瑞牆山荘に到着。早速支度をして富士見平小屋を目指す。ゆっくり歩いても1時間の道のりだ。残雪の樹林帯から稜線に乗ったとたん目の前に瑞牆山の奇岩が姿を現す。圧倒的な存在感に登頂意欲が沸く。林道との合流地点で小屋のスタッフが小型キャタピラー車2台で食料などを運搬しているのに出会う。うち1台が突然停止。まさかのガス欠だ。小屋が近いので燃料を取りに行くというが、小屋から遠い場合はどうなるかと思う。これはもうヒヤリハット。他山の石としなければならない。ほどなく小屋に到着。晴天の週末にもかかわらずここまで出会ったパーティーは3～4組と少ない。今週降った雪が残っているため敬遠されたのだろうか。早速テント設営に取り掛かる。太陽光で温められ、雪が消えて乾いてきている場所を選んだ。

アイゼン・ピッケルの他は最小限の荷物で瑞牆山へのアタックを開始。しばらくトラバースが続いた後、桃太郎岩から急登が始まる。とは言え、後発の前田さんとは14時頃に小屋で合流するため先を急ぐ旅ではない。途中途中で休憩を取りながらゆっくり登っていく。南斜面のため陽が当たる場所は暖かい。雪が解けてシャーベット状だ。しかし、日陰も気が抜けない。凍結や、雪深い場所がある。奇岩の脇を抜けて視界が開けたらそこは山頂、絶景が待っていた。



よく晴れ渡り、金峰山から富士山、アルプス、八ヶ岳、浅間山まで一望だ。しばし景色を堪能するうちに他のパーティーが続々登頂。賑やかになってきた。エネルギー補給を終えるとアイゼンを装着して下山開始。凍結した場所も危なげなく通過し、小屋に到着。

前田さんが小屋前のテーブルでビールを片手に寛いでいる。岡村さんと私も加わり、アルコールで乳酸が溜まった筋肉に軽く血行促進しておくことになった。16時に皆で水場に水汲みに行き、夕飯に取り掛かった。前田さんが群馬の永井食堂から特別に取り寄せてくださったモツ煮込みに野菜や猪肉をトッピング。イノシシ肉のお陰で旨味たっぷりの何とも幸せな味。スープの旨味を堪能すべく、オプションだった雑炊をリクエスト。ご味がすっかりしみ込んだアルファ米は今夜の締めに対応しい。隣のテントの若い男女四人組の声がテントとは別の方向から聞こえる。寒空の中外のテーブルで食事をしているのだ。

翌日は午後から天気が崩れるという予報のため、早出して天候悪化の前に帰還を目指す。8時就寝。
(記：大塚)

CT:瑞牆山荘8:20 - 富士見平小屋9:05/9:45 - 桃太郎岩10:15 - 瑞牆山11:45/12:45 - 桃太郎岩13:45 - 富士見平小屋14:30

4月14日(日) 天候：晴れのち曇り

起床と同時に熱い(!?) 朝を迎えることになる。朝食担当は大塚さん。メニューは「チキンラーメン激辛 MADMAX」!! 辛いのはそんなに得意ではない私だが、ネーミングは何かカッコイイ。辛さの期待感さえ感じる。作り方は通常のチキンラーメンと同じく、お湯を入れてフタをするだけの簡単調理である。違いは、後入れの辛味オイルをどのように入れるかだ。入れすぎた岡村さんと大塚さんは、「ヒーヒー」言いながら極限状態で食していた。二人を見ていた私は、程よい辛味で美味しく頂戴できました。辛党の方はぜひチャレンジしていただきたい。

二日目の行程は登山ルートにはない飯盛山を経由して金峰山へ向かうこととした。飯盛山は標高 2116m で「6」のつく山で、60周年 60 座チャレンジである。積雪もありマイナーな山だけに登山者が踏み入った形跡はない。道なき道を登っていくが、最後尾の岡村 CL がついてこない。聞けば、激辛 MADMAX 効果で胃液が逆流してくると苦しんでいたようである。恐るべきチキンラーメンである。辛さは控えめに・・・が教訓となった。それでも飯盛山山頂に到着すると、眺望は全くなく日当たりも少ない木々に囲まれたところであった。標高を示す山頂標識もない。「6」がつく証明ができない。我々は無駄足だったのだろうか。一応写真だけ撮り、ジャッジはオアヅケとなる。

寄り道を終えて登山ルートに復帰し金峰山を目指す。積雪も増し、一部凍結箇所もありアイゼンを装着する。景色を堪能しながら順調にコースを進んでゆく。稜線にでると、風を受けるものの寒さまでは感じない。むしろ熱くなった体を冷却してくれる心地よい位であった。

金峰山山頂、誰もいない我々3人だけの独占場であった。写真を撮り、しばし360度のパノラマを満喫する。近くには五丈石がある。数年前に単独で登ったことがあり、余裕でいけるであろうと登ってみる。そして途中で行き詰った。アイゼンを装着したままもあるが、補助なしで行くには少しビビった。勝負するよりも安全優先で「今回は許してやる! 覚えてろよ!」と逃げてきた。これで一勝一敗となった。



さて、あとは下るだけである。危なげもなく順調にペース良く下りてゆく。富士見小屋に張ったテントを回収し駐車場まで無事に下山。

今回驚いたのは、日曜日というのに金峰山には我々含めて3パーティーしかいなかったことである。天気予報が良くなかったこともあるが、結果的に天候も荒れずに快適でのんびりすることができた山行であった。

(記：前田)

CT：富士見平小屋 5:30 - 飯盛山 6:20/6:35 - 大日小屋 7:00/7:10

砂払ノ頭 7:55-金峰山 10:00/10:30 - 富士見平小屋 12:30 - 駐車場 14:30